

歯科医療が日本を変える



参議院議員 櫻井 充

略 歴

学 歴：東京医科歯科大学医学部卒業。
東北大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。
職 歴：東北大学医学部付属病院第一内科医員。
国立療養所岩手病院第二内科医長。
現在も現役の医師として活躍中（心療内科）
1998年 参議院宮城県選挙区より当選
2004年 2期目当選
2010年 3期目当選
財務副大臣 参議院 財政金融委員会
民主党 民主党商店街活性化議員連盟（前会長）
適切な医療費を考える民主党議員連盟（前会長）
歯科医療議員連盟（前会長）
統合医療を普及・推進する議員の会（前会長）
インクルーシブ教育を推進する議員連盟（前副会長）
バイオマス活用推進議員連盟（前事務局長） など

米国のサブプライムローンショックを発端とした大不況、そして東日本大震災による被害が大きな問題になっています。外需の急激な減少、円高などの影響により、輸出企業を中心に企業業績は急激に悪化し、雇用情勢も悪化しています。

また、約1400兆円にもものぼる日本の個人金融資産も、将来の医療や介護等の不安のために、特に高齢者を中心に貯蓄に回っており、なかなか個人消費の活性化が難しい状況です。この現状を打開するために、私は医療を産業と捉え、発展させることで内需と雇用が大幅に創出できると考えています。

ところで、日本の医療はWHOから健康達成度調査で世界一の評価を受けていたにもかかわらず、現在は医療崩壊ともいべき状況に直面しています。これは小泉政権時代からの医療費の大幅な削減が続いていることが最大の原因です。

一方、歯科についてはどうでしょうか。昨今、歯の健康が食べることのみならず、全身に大きな影響を与えることが分かってきて、歯科診療により認知症や誤嚥性の肺炎を予防できる効果や、歯科検診によって児童虐待を発見できること等が報告されています。

さらに、高齢者の残存する歯の数と医療費の関連性を考えれば、8020を達成することにより、大幅に医療費を削減できる可能性があります。この費用削減で医療の質を高めたり、介護職員の待遇改善を図れば社会の安心感が高まり、消費の活性化につながっていくことが期待できます。

こうして歯科医療は大変重要であるのに、これまで適切に評価されてこず、診療報酬点数の問題や歯科医師の供給過剰等、それを取り巻く状況は大変厳しいものとなっています。こうした事態を打開していかなければ、歯科医療の発展は望むべくもなく、国民が不利益を蒙ることになってしまいます。

今回、国会での活動実績も交えながらお話をさせていただきますが、先生方が日本の歯科医療を変えていくために一緒に立ち上がっていただければ幸いです。